

平成25年度 自己評価及び学校関係者評価書【1学期・年間】

1 本年度の教育目標

自ら考え行動し、仲間とともに磨き合い、心身ともにたくましい生徒の育成

2 本年度の重点目標

○「確かな学力」の定着
～基礎・基本を活用する力をつける～
○「豊かな心」の育成
～相手の思いに立った言動ができる～
○たくましく生きる
～健全な心身と安全保持の習慣を身につける～

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本を活用する力をつける	・町数学確認テストにおいて、町平均を上回り、達成率80%以上をめざす。 ・県・国学力調査等の学力調査において、県平均を上回るとともに、下位生徒の割合の半減をめざす。	・パープルタイムを設定し、ドリル学習に毎日取り組む。 町数学確認テスト前を中心に重点的な指導を行う。 1時間完結型の授業と家庭学習の習慣化に取り組む。 長期休業中の補充学習や学習相談に取り組む。 家庭学習の習慣化に取り組む。	・毎日10分間のドリル学習を行う。(数学・英語を中心) 主として60点以下の生徒の指導を強化する。 全員が提案授業を行う。 長期休業中は、部活動開始前に補充学習を位置づける。 テスト前に、ノーテレビデーに取り組む。(小中連携) 毎日1時間以上の家庭学習ができる生徒の割合80%をめざし、課題を充実させる。	町数学確認テストの町平均と町達成率との比較 各種学力調査における平均点や下位生徒の割合の分析 生徒・保護者アンケート等で実態を把握する。	・外部指導者による取組みもあり、すべての学年で町平均を1点～10点上回ることができた。達成率は、50%前後であり下位層と中位層の引き上げが課題となる。 ・どの学年も概ね基礎的な学力は定着しているが活用分野の表現力が弱い。 ・1時間以上の家庭学習ができている生徒の割合は1年75%、2年66%、3年56%となっている。テスト前は保護者との協力で学習時間が増えている。休日のテレビ視聴時間が長くなっている。	・60点以下の生徒に対する特別な指導を強化することとテスト前に指導を強化することが求められる。 ・言語活動を重視した授業展開を研修で深める。日常的に表現を重視した取組みを行う。 ・毎日の課題を充実させ、1時間以上の家庭学習の習慣を確立させる。 ・保護者と連携し、ノーメディアデーの取組みを強化する。	・先生方の指導に感謝している。 ・「学び合い」学習や小テストによる定着など様々な努力でさらに伸びると期待できる。 ・1時間以上の家庭学習は、子ども任せにしないで、復習を含めた課題にしてほしい。 ・ノーメディアデーは続けてほしい。保護者もテレビ視聴時間を減らす必要がある。 ・家庭学習の時間が学年が上がるにつれて減っていることが気になる。 ・分析結果を個人指導にいかしてほしい。
相手の思いに立った言動ができる	・生徒・保護者アンケートにおいて、「挨拶」「言葉遣い」等に対する肯定評価の割合80%以上をめざす。 ・図書館での調べ学習等の学習を充実させ、読書量の30%増加をめざす。	・自分から挨拶、立ち止まり挨拶を奨励する。 朝読書や読書貯金通帳に取り組む。 体験的な学習の充実させる。 また、体験したことを表現させる活動を行い、言語活動の充実に取り組む。	・保護者や地域の方と協力し、毎週1回、挨拶運動を行う。 読書貯金通帳で意欲付けをし、読書量1万ページをめざす。 地域コミュニティや地元の人材、大学と連携し、体験的な学習を行う。	保護者アンケート 生徒アンケート 読書量調査における達成度	・保護者の協力や生徒会の取組みもあり、週に3回は挨拶運動を行うことができた。生徒同士の挨拶は80%以上できている。しかし、言葉づかいやマナーなどの礼儀について、「思う割合は、1～2割である。 ・地域人材を活用した取組みや体験を重視した活動を多く取り入れて学習している。しかし、それらの活動を図書館活用までつなげることができていない。 ・6月までの本の貸し出し数は、昨年度比60%増となっているが、読書量の平均は、一人約1000ページである。学年によって差があり、読書量0の生徒もいる。	・地域の人との挨拶の仕方を指導するとともに、礼儀・作法についても指導を強化していく。 ・地域人材を活用した体験学習を教科学習につなげる。 ・読書量を増やすために、「読んでもらいたい本30選」等の取組みを強化する。	・引き続き、取組を続けてほしい。 ・「挨拶」の指導は、地域の方に挨拶の意義を話してもらうことも効果がある。 ・引き続き地域人材の活用をお願いしたい。 ・図書館を活用するにはたらきかけてほしい。特に読書量0の生徒に対するはたらきかけをすべきである。
健全な心身と安全保持の習慣を身につける	・体育の授業と部活動を活性化する。 運動が好きな生徒の割合を増やす。 生徒評価 80%以上 保護者評価 70%以上 安全確保の習慣を身につける。	「1校1実践」の推進を推進し、体力の向上に努める。 生活習慣の確立や防災教育に取り組む。	・体育の授業で基礎体力向上の取り組みを行い、基礎体力テストの数値アップをめざす。 アンケートにおいて「部活に一生懸命取り組む」割合の80%以上をめざす 家庭と連携し、徒歩通学の時間を長くするように呼び掛ける。 毎月八中チャレンジを行う 部活動前に1500m走る 食についての学習 2回/年 防災教育(訓練) 2回/年	基礎体力テストにおけるTスコア 月1回の2000m走タイムの伸び 生徒アンケート	・第3学年生徒も放課後1500m走りその後、放課後学習に取り組んでいる。 ・夏季休業中は、生徒全員が6時30分にグラウンドに集合し、1時間30分のランニングに取り組むことができた。 ・八中チャレンジは、1学期は1回の取組みに終わった。 ・生徒アンケートによると部活動に一生懸命取り組む生徒の割合は80%を超している。しかし、日ごろから体を動かそうと意識している生徒の割合は2～3割程度である。	・継続的に一校一実践に取り組んでいくこと。 ・記録の伸びを記録することで生徒の意欲化につなげること。 ・意識して体を動かそうとすることの意義を知らせ、自主的に意欲的に運動しようとする生徒を育成すること。(例：握力が1kg上がることにどんな意味があるか。)	・夏休み中のランニングは良かった。生徒のやる気を感じる。 ・日ごろから体を動かすことに意欲的に、楽しんで取組み体力アップを図る必要がある。 ・目標を設定し、記録を意識させると意欲につながると思う。 ・雨天時以外は、徒歩での通学を引き続き呼びかけてほしい。